

---

特集1：徳島県における健康保持増進体制 ―糖尿病の見地から―

---

## 徳島県健康づくり活動（徳島県での仕組み）

## （1）糖尿病地域連携の徳島県での仕組み構築

石 本 寛 子

徳島県保健福祉部医療健康総局

（平成23年11月10日受付）（平成23年11月11日受理）

平成22年の人口動態統計月報年計（概数）が6月1日に公表され、本県の糖尿病死亡率（粗死亡率）が平成19年に7位に改善した後、3年連続全国1位となった。同時に、糖尿病と関連のある腎不全も全国1位であることがわかった。（実は徳島医学会が開催された時は概数であったが、9月に確定数が公表され、1位が確定している。）

平成7年から11年までの国民健康栄養調査結果を都道府県別に分析した状況を見ると、徳島県は、北海道、東北地方と並んで肥満者の割合が高く、一日平均歩数が少ないという、糖尿病増加の背景となる地域特性がみられ、県民が一体となった予防対策が必要であった。そこで、糖尿病死亡率1位が12年間続いた、平成17年11月に、徳島県知事と徳島県医師会会長が共同で「糖尿病緊急事態宣言」を行った。この結果これまで、県医師会、徳島大学、市町村を始め、各分野の総力をあげた取り組みが続けられている。おかげで、粗死亡率にはなかなか結果が現れないものの、年齢調整死亡率や患者調査などの数値には、少しずつ改善がみられており、今後も息の長い取り組みが必要である。

また、平成15年に実施した県民健康栄養調査によると、糖尿病有病者のうち、約1割が治療を中断しており、約

4分の1の人が未治療で放置されている。さらに、人工透析導入患者の約45%が糖尿病腎症であり全国よりその割合が高くなっている。こういったことから、県民の健康づくりを進める一方で、早期発見・早期受診を促す二次予防、合併症を予防する三次予防などの必要性が、県医師会に設置されている「糖尿病対策班」において議論されたところである。

こういった二次予防、三次予防を進めるためには、糖尿病の予防から医療までの県内のネットワークづくりが重要な鍵を握っている。そこで、平成20年3月の、第5次「徳島県保健医療計画」の策定にあわせ、徳島県における糖尿病地域医療連携のシステムを構築することにした。国の指針に基づき、「初期安定期治療」、「専門治療」、「慢性合併症治療」、「急性増悪時治療」の4つの機能をもつ医療機関を毎年実施している医療機能調査結果を踏まえ、県のホームページで公表している。その基準や連携のあり方、連携の手段である「地域連携クリティカルパス」については、「糖尿病対策班」で議論していただいた。その結果、専門医、合併症治療医とかかりつけ医との間だけでなく、市町村とかかりつけ医、歯科医師とかかりつけ医などが連携するためのクリティカルパスの応用につながった（図1）。

現在、地域ごとの連携体制の構築が県下全体に広がっているという状況には至っていないが、糖尿病専門医、糖尿病療養指導医、県医師会が養成している糖尿病認定医、糖尿病療養指導士等の方々の数が本県で着実に増加

していることは関係者の熱意の表れである。これからも皆様にご協力を頂きながらネットワークづくりに取り組んでいきたいと考えている。

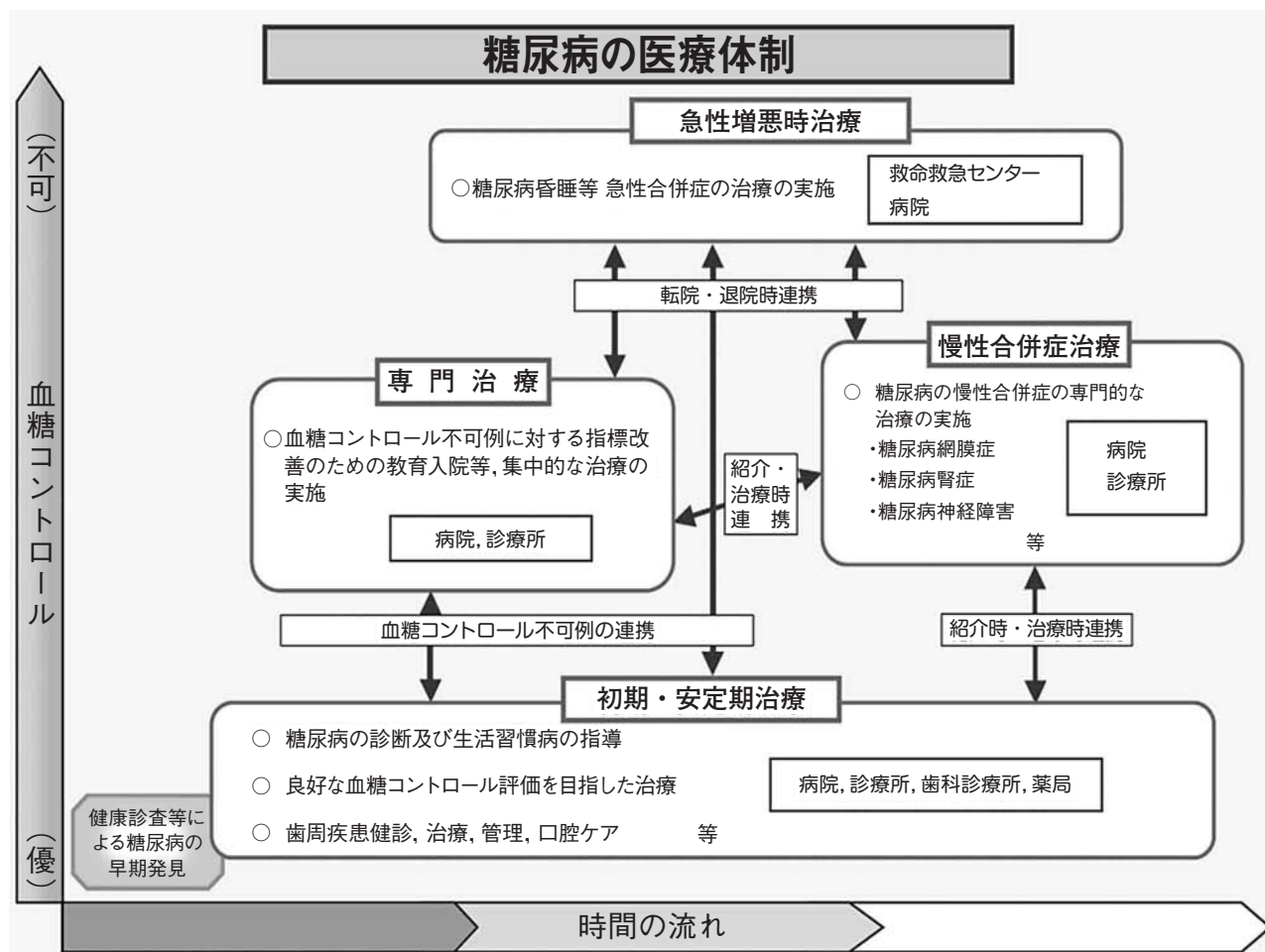


図 1